

甲賀流忍者

ガイドマップ

滋賀県甲賀市

交通のご案内



お車で



電車

新名神高速道路信楽 IC、甲南 IC、甲賀土山 IC から各町へ。

JR 琵琶湖線草津駅乗り換え、JR 草津線各駅で下車。

JR 関西本線植杉駅乗り換え、JR 草津線各駅で下車。

JR 草津線貴生川駅で信楽高原鐵道と近江鉄道に接続。

お問い合わせ先

甲賀市観光協会

〒520-3308 滋賀県甲賀市甲南町野田810番地
TEL.0748-60-2690 FAX.0748-60-2362
http://www.koka-kanko.org



今に伝わる忍者の事蹟



1 油日神社 (油日)

祭神油日大神は中世甲賀武士の崇敬を集め、矢川神社同様頻りに甲賀武士 (忍者) たちの集會が行われた。甲賀忍者がウツヨヨ居た!!

住所	甲賀市油日1042	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)88-2106	拝観料	無料



6 長福寺

浄土宗。江戸甲賀百人組の内の梅田勘十郎組の位牌・供養塔がある。

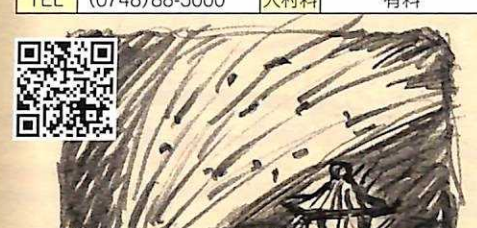
住所	甲賀市甲賀町田野1008	駐車場	普通
TEL	(0748)88-5111	拝観料	無料



11 忍術村

甲賀流忍術のテーマパーク。カラクリ屋敷や資料館は、その他の施設と共に、主として子供たちが甲賀流忍術を楽しく体験し学ぶ場所。

住所	甲賀市甲賀町崎崎394	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)88-5000	入場料	有料



16 瀬古薬師堂

9月12日の薬師堂会式の日に、「流星」が打ち上げられます。甲賀流忍者は多くの秘薬を発明、中でも「火薬」は、最も技術が進み、忍者の合図用弾薬と伝えられています。

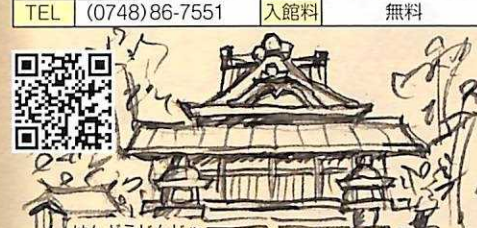
住所	電法師区長連路	駐車場	普通
TEL	—	拝観料	—



21 甲南ふれあいの館

忍術という総合技術を生んだ甲賀の地、古来仙仕の里であり、その根幹には連綿と伝わる鉄加工技術があった。

住所	甲賀市甲南町基本925	駐車場	普通
TEL	(0748)86-7551	入館料	無料



26 飯道神社

奈良時代以前から続く飯道神信仰の中心。東大寺二月堂にも飯道神が勧請されている。その後神々は仏教と習合して修験道に発展する。現在の社殿は安土桃山時代の再建になるもので、国指定重要文化財。

住所	甲賀市信楽町宮町7	駐車場	無し
TEL	(0748)60-2690	拝観料	無料



2 甲賀歴史民俗資料館

白洲正子氏が絶賛した福太夫の面などの中世甲賀の民俗資料と共に、高峰家、和田家等の文書の一部が公開展示されている。

住所	甲賀市油日1042	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)88-2106	入館料	有料



7 大原家屋敷 (非公開)

大原数馬氏の屋敷。四方が土壁に囲まれ甲賀武士 (甲賀忍者) の中でもその存在は高い。

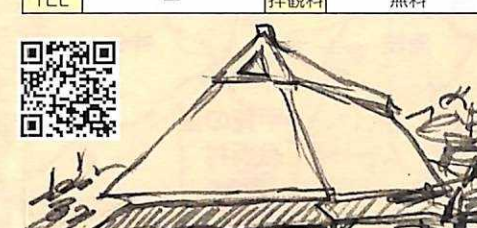
住所	甲賀市甲賀町田野	駐車場	無し
TEL	—	拝観料	—



12 佐治神社

佐治氏の氏神。古くは小佐治大明神社。文明2年 (室町) 佐治美作守平朝臣為氏建立の棟札あり。

住所	甲賀市甲賀町小佐治1958番	駐車場	普通
TEL	—	拝観料	無料



17 慈眼寺

臨濟宗。江戸甲賀百人組望月藤左衛門組 10 人の位牌と石碑が残る。伏見城龍城戦で戦死した先祖の 250 回忌供養に子供が帰ってきた。

住所	甲賀市甲南町野田469	駐車場	普通
TEL	(0748)86-4813	拝観料	無料



22 矢川神社

矢川姫と大田主を祀る式内社。中世・戦国時代には甲賀武士 (忍者) 達が甲賀郡中郷の集會を行った。甲賀忍者がウツヨヨ居た!!

住所	甲賀市甲南町森原310	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)86-3147	拝観料	無料



27 唯称寺

浄土宗。江戸甲賀百人組の山中福永組十人の墓が残る。

住所	甲賀市水口町宇田142	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)62-3932	拝観料	無料



3 櫛野寺

天台宗の寺院。日本最大の木造観音坐像と20体の重文の平安仏が安置されている。甲賀武士の誇りの寺で江戸の寛永寺と繋がる。

住所	甲賀市甲賀町櫛野1377	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)88-3890	拝観料	有料



8 称名寺

浄土宗。江戸甲賀百人組の山岡伊織組の供養塔や戦国武將・山岡景光の墓石が残る。

住所	甲賀市甲賀町櫛野1370	駐車場	普通
TEL	(0748)88-3759	拝観料	無料



13 檜尾神社

本殿再建に際し、織田信長の武將池田勝三郎 (恒興) が奉納した棟札が残る。鳥取・岡山藩主池田家の先祖である。

住所	甲賀市甲南町池田3-1	駐車場	普通
TEL	(0748)86-5878	拝観料	無料



18 甲賀流忍術屋敷

甲賀流忍術のリーダー望月七雲守が、山伏として江戸時代に実際に住んでいた、かくくりの外に忍術文書や製薬道具が残る本物の屋敷。

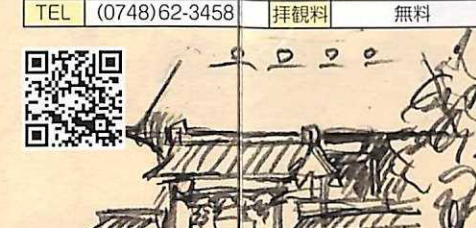
住所	甲賀市甲南町竜巻331	駐車場	普通
TEL	(0748)86-2179	入館料	有料



23 庚申山広徳寺

天台宗。南北朝時代には戦場にもなった当山は比較的低地にあり、里山伏たちの隠れ修行の場であったと思われる。

住所	甲賀市水口町山198	駐車場	普通
TEL	(0748)62-3458	拝観料	無料



28 柏木神社

甲賀武士山中氏の氏神。山中氏が甲賀郡中郷の中心であった歴史を持つ神社。損失祭 (ようやさい) は、白鳥を弓矢で迎えるという珍しい祭りが残っている。

住所	甲賀市水口町北189	駐車場	普通
TEL	(0748)62-3339	拝観料	無料



4 極楽寺

最後の足利将軍となる覚慶 (後の足利義昭) を匿い織田信長に引合せるなど戦国時代に活躍した武將・和田惟政の墓があり、徳川家代々8代までの位牌がある。

住所	甲賀市甲賀町上野1517	駐車場	普通
TEL	(0748)88-4948	拝観料	無料



9 多聞寺

浄土宗。慶長5年 (1600) の伏見城龍城戦で戦死した篠山理兵衛親子の墓と篠山家4代位の位牌が残る。

住所	甲賀市甲賀町鳥居野890	駐車場	普通
TEL	(0748)88-4884	拝観料	無料



14 油日神社 (馬杉)

杉原齊入が忍術で聖徳太子の馬を隠し太子を助けた、物部守屋退治と云う馬杉に残る聖徳太子伝承の中心。辻月旦の奉納灯籠も残る。

住所	甲賀市甲南町上馬杉1461番	駐車場	普通
TEL	—	拝観料	無料



19 明王寺

天台宗。本尊不動明王。脇には家康以下徳川家四代の位牌が残る。本能寺の変後の家康退避行はこの地を通った可能性がある。

住所	甲賀市甲南町明王1972	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)86-2572	拝観料	無料



24 飯道寺

明治初期修験禁止令・神仏分離令を受け、山上の仏教的施設が廃絶され、貴重な仏像等が流出する中、残る大切な遺産を鑑み、真言宗ではなく、修験者に多かった天台宗の寺として明治時代に新たに再興された。

住所	甲賀市水口町三三寺	駐車場	無し
TEL	(0748)60-2690	拝観料	有料



29 川田神社

甲賀武士内蔵氏の氏神。創建は垂仁天皇の代とされる古い歴史を持つ神社。損失祭 (ようやさい) は、白鳥を弓矢で迎えるという珍しい祭りが残っている。

住所	甲賀市水口町北内蔵490	駐車場	普通
TEL	(0748)62-6084	拝観料	無料



5 くすり学習館

近江と甲賀の製薬・売薬の歴史を学ぶ施設。体験学習の一環として忍者の携帯食「兵糧丸」作りを実体験できる。

住所	甲賀市甲賀町大原898-1	駐車場	無料・大型
TEL	(0748)88-8110	入館料	無料



10 大鳥神社

元牛頭天王社。武勇の神ササノオの命を祀る。大原同名中の氏神。今も8月3日に全国から関係者が集まり、大原同名中の集會がある。

住所	甲賀市甲賀町鳥居野782	駐車場	普通
TEL	(0748)88-2008	拝観料	無料



15 誓蓮寺

浄土宗。岸和田藩甲賀五十三士の馬杉氏の菩提寺。なぜか第五代岸和田藩主の位牌が残る。無縁墓地には甲賀くのいちの物語が残る。

住所	甲賀市甲南町上馬杉1435	駐車場	普通
TEL	(0748)86-4494	拝観料	無料



20 岩尾山忌降寺

天台宗。本尊不動明王。奥の院には唐土僧が残る。山全体が忍者の修行場であったとも云われる。

住所	甲賀市甲南町杉谷3774	駐車場	普通
TEL	—	拝観料	無料



25 飯道山

修験道を開創した役行者がこの飯道山をも開いたと伝わる。醍醐寺三宝院の直轄地として梅本院・若本院など 50 もの僧坊を山中に営じて、各地の山伏の任免権行使して全国に威勢を振るうとともに、多くの甲賀忍者の師がこの山中で修行して果した。

住所	甲賀市水口町三三寺	駐車場	無し
TEL	(0748)60-2690	入山料	無料



30 大光寺

鎌倉時代の公卿・近衛家基が右大臣を経て、1289 年没となり、後に信楽村小川に隠居。家基の孫がこの地の家族・多羅尾氏の始祖になる。

住所	甲賀市信楽町小川1137	駐車場	普通・大型
TEL	(0748)82-1364	拝観料	無料

ボランティアガイド

市内の名所、旧跡、観光地、忍者ゆかりの地等のガイドをご希望の方は、お気軽にお申込みください。

申込先
甲賀市観光協会
〒520-3308 滋賀県甲賀市甲南町野田810番地
TEL.0748-60-2690

Rent-a-cycle レンタサイクル

設置場所	営業時間	お問い合わせ	料金/日
道の駅「あいの土山」	9時から18時 火曜定休	TEL.0748-66-1244 道の駅「あいの土山」	¥1,000 (保証金¥15,000)
信楽高原鐵道「信楽駅」構内	9時から17時	TEL.0748-82-3391 信楽高原鐵道	¥1,000 (保証金¥15,000)
信楽町観光協会 (伝統産業会館内)	9時から17時	TEL.0748-82-2345 信楽町観光協会	¥1,000 (保証金¥15,000)
JR油日駅	9時から17時	TEL.0748-88-5879 油日駅を守る会	¥1,000 (保証金¥15,000)
JR甲賀駅	9時から17時	TEL.0748-60-2690 甲賀市観光協会	¥500 (保証金¥5,000)
JR寺庄駅前	7時から18時	TEL.0748-86-2109 小川商店	¥500 (保証金¥5,000)
JR甲南駅前	8時から17時	TEL.0748-86-2305 杉本商店	¥500 (保証金¥5,000)
JR貴生川駅 (貴生川地域市民センター)	8時半から17時15分	TEL.0748-62-2027 貴生川地域自治振興会	¥700 (保証金¥5,000)

江戸幕府と「甲賀百人組」

天正10年 (1582) 本能寺の変の直後、家康が堺から岡崎へ逃亡する「神君甲賀伊賀越え」に当たり、多羅尾一族など多くの甲賀武士が家康一行を支援した。彼らは江戸幕府成立後、この時の貢献を認められて多くが500石取り以上の江戸在住旗本となった。多羅尾、山口、和田、山岡、山中、美濃部、武島などである。彼らは一般には忍者とは呼ばれていないが、活動の内容は如何にも甲賀武士的であり、甲賀忍者的活動であったと云える。

慶長5年 (1600) の関ヶ原の役に際しては、前哨戦となった家康の城伏見城の籠城戦に百人余りの甲賀武士が参戦し、80人以上が戦死した。戦後家康は、数少ない生存者と戦死者の遺族を中心に10人の与力 (200石) と100人の同心 (20石) として甲賀の地で「甲賀百人組」を編成した。約30年後江戸幕府の命で彼らは江戸へ移住し、「江戸甲賀百人組」として青山辺りに集住し、江戸城百人番所に勤め、大手三門の守備に当たった。

嘉永2年 (1849)、これら与力と同心の子孫たちが伏見城で戦死した先祖の250回忌法要のため甲賀に一時帰郷し、与力たちの出身地の寺に集団位牌と石碑を残した。今も残るこれらの跡は甲賀忍者として戦場に散った先祖のお陰と感謝した子孫の気持ちの証である。



甲賀忍者と中世城郭

～人物とかかわり～

1 上野城跡 (甲賀市油日)	2 村雨城跡 (甲賀市新治)	3 寺前城跡 (甲賀市新治)	4 新宮城跡 (甲賀市油日)	5 新宮支城跡 (甲賀市新治)	6 竹中城跡 (甲賀市新治)	7 山中城跡 (甲賀市新治)	8 山中支城跡 (甲賀市新治)	9 山中支城跡 (甲賀市新治)	10 山中支城跡 (甲賀市新治)
上野同名中の領主上野氏の居城。織豊期に手を加えた跡が見られる。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。	国指定史跡。城主不明だが、織田軍から六角氏を守るため改修されている。

11 下山城跡 (水口町下山)	12 水口岡山城跡 (水口町水口)	13 土山山城跡 (土山町北土山)	14 黒川氏城跡 (土山町黒川)	15 大河原城跡 (土山町大河原)	16 音羽城跡 (土山町音羽)	17 小川城跡 (信楽町小川)	18 朝宮城跡 (信楽町朝宮)	19 多羅尾代官陣屋跡 (信楽町多羅尾)	20 三雲城跡 (湖南市三雲)
織田退治に名を残し、本能寺の変で信長と共に戦った伴氏本流伴太郎左衛門の城。	甲賀武士を監視するため秀吉の命で作られた中村堀田長房三代の城。完全に織豊系。	後の土山本陣土山氏が武士であったとき、堀田一益に攻められ落城したと云う。	甲賀武士黒川氏の城であるが、小牧長久手戦の際に秀吉により改変された模様。	甲賀武士大河原氏の居城であるが、織豊期に大きな改変を受けている。	頼富氏の城。形状は単郭方形であるが、60m×70mと異常に大きい。織豊系か。	天正10年神君甲賀伊賀越えの際、家康一行が多羅尾一族に守られて泊まった城。	城主不明。城跡の特色からは、家康一行が多羅尾一族に守られて泊まった城。	1600年に代官に就任して以来268年間徳川家領5〜11万石の代官屋敷があった。	甲賀武士三雲氏の城。三雲氏は六角氏の信濃屋・度々六角氏がこの城を頼った。

忍者と忍術

甲賀は伊賀と並ぶ忍者の里である。特に仙川の流域と飯道山の山麓は、古くから天台密教と修験道が重層した結果山上の修験と里山伏が一体となり、そこへ甲賀の地理的特色や都の近さが、深い知識と高い技術、強い武術と厚い情報網を合わせ持つ甲賀武士集団を生み出した。戦国時代、彼ら甲賀武士が「甲賀の忍び」として世に知られ、各地の大名に招かれて特異な活躍をしたとき、彼らの中に「甲賀忍術」が成立していった。

「忍者」という用語は近代のものであるが、「甲賀の忍び」が戦国時代に有能であったことは家康の軍師が江戸時代初期に書き残しており、間違いのない歴史上の事実である。一般に「甲賀の忍び」はゲリラ戦や情報戦を得意とし、元々火矢、のろし、松明など黒色火薬を用いる技術である火術をも得意とし、火縄銃が渡来した時にはいち早く導入した。これらの戦闘技術に、薬草の知識をベースとして腹薬や鎮痛剤から毒薬や眠り薬、地理や星座の知識、安心を得るための精神統一術、更には情報操作術から高度な戦術論や戦略論まで幅広い知識を加えて集大成されたものが「忍術」である。

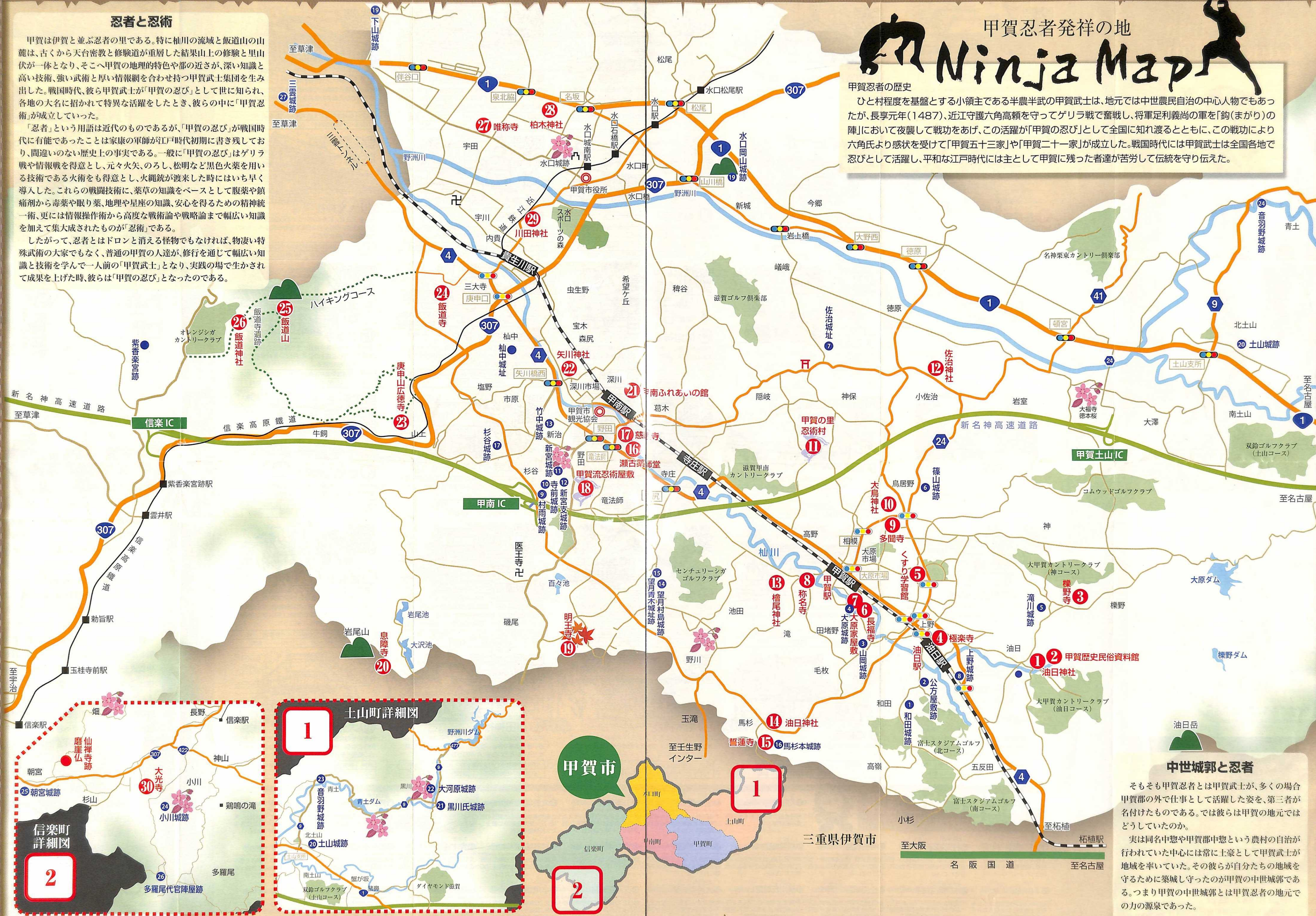
したがって、忍者とはドロンと消える怪物でもなければ、物凄い特殊武術の大家でもなく、普通の甲賀の人達が、修行を通じて幅広い知識と技術を学んで一人前の「甲賀武士」となり、実践の場で生かされて成果を上げた時、彼らは「甲賀の忍び」となったのである。

甲賀忍者発祥の地

Ninja Map

甲賀忍者の歴史

ひと村程度を基盤とする小領主である半農半武の甲賀武士は、地元では中世農民自治の中心人物でもあったが、長享元年(1487)、近江守護六角高頼を守ってゲリラ戦で奮戦し、將軍足利義尚の軍を「鉤(まがり)の陣」において夜襲して戦功をあげ、この活躍が「甲賀の忍び」として全国に知れ渡るとともに、この戦功により六角氏より感状を受けて「甲賀五十三家」や「甲賀二十一家」が成立した。戦国時代には甲賀武士は全国各地で忍びとして活躍し、平和な江戸時代には主として甲賀に残った者達が苦勞して伝統を守り伝えた。



中世城郭と忍者

そもそも甲賀忍者とは甲賀武士が、多くの場合甲賀郡の外で仕事として活躍した姿を、第三者が名付けたものである。では彼らは甲賀の地元ではどうしていたのか。

実は同名中惣や甲賀郡中惣という農村の自治が行われていた中心には常に土豪として甲賀武士が地域を率いていた。その彼らが自分たちの地域を守るために築城し守ったのが甲賀の中世城郭である。つまり甲賀の中世城郭とは甲賀忍者の地元での力の源泉であった。